

かお・人・interview

2021年7月13日

団体長
インタビュー



知識と技術を駆使して 地域を守るのが 私たちの役目

一般社団法人 福岡市設計測量業協会 会長
福澤一博氏

（社）福岡市設計測量業協会は、測量設計として福岡市と「災害協定」を締結している団体だ。災害が起これば、被災地域の復旧や整備に携わり福岡市のニーズに添えている。だからこそ、協会員と協会外との違いを明確にしたいと語る。それには協会の役割や重要性を根気強くアピールしなければならぬ。会長に就任し2期目となった福澤氏に、今後の取り組みを伺う。

新年度の抱負

福岡県では、平成29年から4年連続となる「大雨特別警報」が発令。頻発する大規模自然災害の深刻な被害に直面しています。

また、昨年は7月に「令和2年7月豪雨」が発生し、熊本県の球磨川では未曾有の災害が起きました。福岡市も例外ではなく「災害協定」に基づく災害支援が4カ所発生。会員のみなさまのご協力で、無事に災害支援活動が行われました。

協会としても、市民のみなさまが安心して暮らせる福岡市の社会インフラ創りに、力を入れていきたいと思っています。それには、技術の習熟、就業環境の取り組み、若手技術者問題など、時間をかけてこれらの対応にしっかりと取り組んでいくことが必要です。令和の新時代の設計・測量業界を牽引していけるよう、協会の発展に寄与したいと思っています。

団体を担って意識していること

測量設計には、幅広い分野の知識や経験が必要で、AIやIoTなど新しい技術が生まれても、それを使いこなす専門家が不可欠。変革する技術革新に、研究と研鑽を重ねられるよう、協会として会員を牽引していきたいと思っています。新規会員確保、後継者不足、人材確保の難しさなど、考えなければいけないことはたくさんあります。

▲災害支援活動



とくに会員数減少は懸念材料のひとつです。就任当時は72社でしたが、現在は69社。測量業務の減少が会員離れにつながっています。このままでは、大規模災害発生時に災害協定による支援などが滞る事態が危惧されます。この局面を打破できるよう声を上げていきたい。それが安定的な業務確保につながり、人材確保や育成も積極的になれます。

業務の課題と未来

測量業は社会インフラ整備の根幹を担っています。工事の大小に関わらず、測量作業がなければ、設計も始まりません。公共事業において新しいインフラ整備の減少は否めませんが、維持管理のための事業が増えることは想定されます。これらのニーズに対応するため、技術者のスキルアップは必要不可欠です。

当協会は2020年の11月に「令和2年度技術講習会」を北九州で開催しました。ICT搭載の建設機械の実機体験、3D計測器の計測体験、隣接の共同開発研究センター会議室では、BIM/CIMと



◀令和2年度技術講習会

ICTの動向等について専門家から講義を受け好評を得ました。こうした、研修は繰り返し行うことが重要です。技術者が新技術に対応できるよう、情報収集や学習の場の提供など取り組んでいきたいと思っています。

今年度の事業計画

当協会の令和3年度の取り組みについては、建設DXの推進、脱炭素社会の実現、SDGsへの取り組みに関して協会として検討を進める共に、「防災協定」のより円滑な作業および手続きとなるよう、福岡市と共に効果的な体制づくりを進めたいと考えています。

また、社会貢献活動の実施や「働き方改革」を推進することで、協会員の担い手確保・育成、女性活躍社会の実現に取り組んでまいります。加えて、政策提案や意見交換会での要望活動、会員の増強、受注拡大に努めつつ、当協会員が専門技術者集団として更なる技術の研鑽を積み重ね、地域に精通した企業特性をしっかりと発揮できるように、協会としての役割を果たしたいと思っています。

市に対する要望

当協会は測量設計において、福岡



▶道路危険箇所調査

測量の日記念「あそこまでなんぼ」がコロナ禍で2年連続中止となりました。楽しみに待っているという声も届いています。来年は、ぜひ開催したいと考えています。

協会の業務概要

設計測量業の技術の向上と業界の健全な発展を図るため、会員の指導及び連絡に関する事務を行い、もって公共の福祉の増進に寄与することと定めています。

この目的を達成するために、(1)設計測量業に関する技術の研究及び経営の進歩改善 (2)設計測量業に関する知識の啓発、普及、情報の提供、資料の頒布 (3)関係官庁及び諸団体等との連絡交渉並びに提携を事業として実施しています。

- 技術講習会 ● 経営者研修会 ● 福岡市との意見交換会 ● 測量の日記念「あそこまでなんぼ」 ● 道路危険箇所調査 ● 防災協定の締結 ● 飲酒運転撲滅宣言等を行っているところです。



市と「災害協定」を締結している唯一の団体です。災害発生時に、協会員は災害査定のための測量設計、応急対策業務へいち早く駆け付けます。

だからこそ、締結企業のインセンティブ付与をお願いしたい。協会員への優先指名が実現すれば、会員のメリットにつながります。それには、福岡市へ当協会の貢献度を積極的に伝える必要があります。例えば、「道路危険箇所調査」は、情報提供を高く評価していただいていますので、協会のアピールに有効でしょう。7月に入ったら、福岡市に結果報告を行いたいと思います。

趣味や健康法、特技など

特定の健康法はありませんが、趣味の釣りや自然に触れて英気を養っています。社会状況が許せば、毎週でも行きたいと思っています。幸い福岡は海も山にもアクセスがよい。お気に入りの場所、釣り糸を垂らして、夕日を眺める。雄大な海を見ると、身体力が抜けていきます。そこでビールを飲むのが一番の楽しみです。



PROFILE
(一社)福岡市設計測量業協会 会長、(一社)福岡県測量設計コンサルタント協会(設計委員会担当) 副会長
(株)スリーエヌ技術コンサルタント 代表取締役社長 福岡県春日市出身 昭和33年生まれ 63歳

社会貢献活動

1. 防災協定に基づく災害支援活動への積極的参加
2. 市内道路に関する危険箇所の調査・報告等
3. 街区基準点(公共基準点)の管理・運営
4. 飲酒運転撲滅に関する宣言および大会への参画 社会貢献